



令和6年度神奈川支部通常総会が開催

5月18日(土) 13:30~14:50、横浜駅西口の「かながわ県民センター」301会議室において、令和6年度日本山岳会神奈川支部通常総会が開催されました。



決議事項

- 第1号議案 令和5年度事業報告
- 第2号議案 令和5年度会計報告
- 第3号議案 令和6年度事業計画案
- 第4号議案 令和6年度予算案
- 第5号議案 執行体制案

総会への出席者は、28名(込田支部長除く)。委任状による出席32名(支部長、事務局長、中島会員に委任)書面による議決権行使10名(全員全議案に賛成)計68名。令和6年3月末現在の支部会委員は126名であり、出席者68名は過半数を超えているので総会は成立していることが報告された。

次いで支部規約第15条により、本総会の議長に込田支部長が選出された。

(1)永井事務局長より、令和5年度事業報告について説明があり、承認された。次いで、青木会

計担当より、令和5年度会計報告の説明があり、承認された。さらに砂田監事より、会計監査および業務監査の結果について報告があった。

(2)永井事務局長より、令和6年度事業計画について説明があり、承認された。次いで、青木会計担当より、令和6年度予算案の説明があり、承認された。

なお、質疑では、山行を活発化する必要性の意見が多数出された。

(3)込田支部長より、令和6年度の執行体制と今後の人事の検討体制について提案があり、承認された。

※支部総会での決定事項は、事前配付の総会資料の原案通りに承認されましたので そちらの資料でご確認をお願い申し上げます。

2024-9-29 神奈川県に関する 学術講演会開催のお知らせ

神奈川県は、その成り立ちやそれに伴う植生などで大きな特徴があります。また、最近では山岳信仰への関心も高まっています。そこで、神奈川県に関する山について、その特徴を学術的な視点から分かりやすく解説していただくとともに、現状の問題点の認識を共有することを目的として、下記のような講演会を実施します。

日時：2024年9月29日(日)
13:30～16:00 (受付13:10から)

場所：かながわ県民センター2階ホール
(横浜駅西口徒歩5分)

講演内容

- (1) 神奈川の山の生い立ち
平田大二
(神奈川県立生命の星・地球博物館元館長)
- (2) 植物から見た丹沢、箱根、小仏山地
勝山輝男
(神奈川県立生命の星・地球博物館元学芸部長)
- (3) 相模の山岳信仰と修験道
鈴木正崇
(慶應義塾大学名誉教授、日本山岳修験学会会長)

参加費：無料。

ただし、事前申し込みが必要氏名を記して
kana.sec.19@gmail.comに申し込んでください。

<講演概要>

「神奈川の山の生い立ち」

平田 大二
(神奈川県立生命の星・地球博物館元館長)
「山」とはなんだろうか？ 国土地理院では山の定義はしていないが、辞典等からの引用として、山というのは周りに比べて地面が盛り上がり高くなっているところと紹介している。地形や地質に詳しいタモリさんではないが、坂があれば山があることになる。では、なぜ周囲よりも高くなるのだろうか。大地が地殻変動により隆起する、また火山活動により火山噴出物が積み重なれば高くなる。神奈川の山々も、そのような大地の営みで出来上がってきたものである。当たり前のように思われがちだが、山が、いつ、どのようにしてできたのかを確かめるのは実は簡単ではない。山の正体と歴史を解き明かす学問の一分野が、地質学であり地球科学で

ある。

「植物から見た丹沢、箱根、小仏山地」

勝山 輝男
(生命の星・地球博物館 元学芸部長)
丹沢、箱根、富士山、伊豆にかけての地域は、サンショウバラ、ハコネコメツツジ、フジアザミなど、この地域に分布が限られた植物が数多くある。これらは、岩場、風衝地、崩壊地、林縁などに生えるものが多い。植物の種類相からみた 県西の山地の特色を紹介する。
1990年頃から丹沢ではニホンジカの採食圧により林床植物が衰退した。最近では、箱根や小仏山地でもニホンジカが増加しつつある。また、塔ヶ岳から蛭ヶ岳の稜線はかつてうっそうとした樹林に被われていたが、オゾンなどの大気汚染の影響でブナが枯れ、どこも眺めの良い稜線になってしまった。植物から見た県西山地の異変についても考えたい。

「相模の山岳信仰と修験道」

鈴木 正崇
(慶應義塾大学名誉教授、日本山岳修験学会会長)
相模の人々にとって最も身近な信仰の山は秀麗な山容の大山で雨乞いで知られていた。かつては沢山の登拝講があって賑わい、浮世絵や名所図会に描かれて親しまれてきた。近年は日本遺産に登録され信仰習俗も一部復活している。相模には中世に遡る修験道の中心地があった。大山の北東にあって修験集落を山麓に形成した八菅山である。大山までの峯入り修行を明治5年まで継続してきた。山北では秋には踊りと歌を山上の神明社に奉納するお峯入りの祭りが行われ、修験道儀礼の芸能化とも言える。2022年にユネスコ無形文化遺産「風流踊」に登録された。伊豆・箱根も山岳信仰の中心地で、源氏の深い帰依を受けてきた。多様な展開を見せる相模の山岳信仰と修験道について検討を加えてみたい。

かながわ山岳誌出版記念講演会（報告）

令和6年3月23日、神奈川大学横浜キャンパス3号館B104教室にて、「かながわ山岳誌」出版記念講演会を開催しました。この講演会には、会員以外の一般参加者を合わせ約150名の出席があり、用意した会場がほぼ一杯となる盛況ぶりでした。

かながわ山岳誌

県内のほぼすべての山の踏査記録と学術・文化情報

YAMAKEI
CREATIVE
SELECTION



日本山岳会神奈川支部

「かながわ山岳誌」

日本山岳会神奈川支部(著)

出版社:山と溪谷社 発売日:2024/2/8

単行本(ソフトカバー):304頁



会場風景

基調講演に先立ち、込田支部長より主催者挨拶があり、続いて会場提供者の神奈川大学

山岳部から活動報告をいただきました。

一番目の基調講演は、テレビでお馴染みの山と溪谷社の萩原浩司氏による「ウラヤマからヒマヤラへ一本が導いてくれた山の世界」と題しての講演です。萩原氏の山登りは、幼少期の自宅のウラヤマから始まり、小学生の頃は栃木県内の那須岳、男体山、奥白根山と続き、このころ手本にした一冊の本は、アルパインガイド「日光・奥鬼怒・那須・塩原」で、登る前に知っておくべき知識を学んだとのこと。次の目標は、上高地・槍ヶ岳・穂高岳へとなり、「日本山岳体系」を熟読して、高校生の頃は裏銀座から槍ヶ岳、岳沢から前穂高、大学では雪山、岩登りとよりハードな体験をしていきます。さらに、未踏峰への挑戦として、「ヒマヤラ名峰辞典」からOutliner East(現地語でJanak Chuli)を選び出し、2013年に挑戦し、登頂に成功しました。頂上で掲げた旗の寄書には時の日本山岳会会長の森武昭氏(神奈川支部会員)のサインも見られ、今回との縁を感じる、まさに演題にふさわしい講演でした。



萩原浩司氏

次の基調講演は、山の天気(ヤマテン)で有名な気象予報士の猪熊隆之氏の「山岳気候の特徴」と題しての講演です。導入部では、雲とはや、風の収束により上昇気流が生じて雲ができ、したがって山では雲が出来やすいなどの話があり、続いて、神奈川県特有の季節ごと山域ごとの気象について解説がありました。北東気流で

関東地方の天気が悪くなるのとは別に、関東地方の東に高気圧があると相模湾からの海風の影響で他の地域で晴れていても神奈川県では曇るというのもその一例です。山岳遭難について、特に雷の時に木の下への避難は危険とは知っていましたが、山小屋へ入るのをためらい、軒先での避難も危険との指摘がありました。今後の山行に役立つ山岳気象の講演でした。



猪熊隆之氏

基調講演の後には、講師お二人と本の執筆・編集に携わった永井、田島、砂田、森（司会）の各氏によるトークショーです。特に執筆者からの藪漕ぎなどの山行話や収集したデータの出版面からの制約についての苦労話などが印象に残りました。また、読者から、詳しい地図情報やGPSのデータを掲載して欲しかったとの意見が紹介され、会場からも同意見の表明がありました。



トークショー光景

講演の部終了後、会場を食堂に移して懇親会が行われました。講師お二人と支部会員、一般参加者、神奈川大学の学生など50数名の参加者がありました。大槻副支部長の司会のもと、松田理事（千葉支部長）の乾杯のご発声で会が始まり、途中多くの方から好評をいた

だき、打ち解けた雰囲気の中で歓談が進み、宴たけなわのうちに、お開きとなりました。



懇親会光景

参加者のアンケート結果でも大変好評価をいただいています。このプロジェクトは、支部設立記念事業として8年の歳月を費やして完了しましたが、この成果を励みに、支部の次なる活動に繋げていきたいと願っています。

なお、この講演会は2023年度支部特別助成金により開催したことを付記します。

（渡邊記）

『かながわ山岳誌』出版記念講演会 アンケート結果

『かながわ山岳誌』（山と溪谷社出版）は、今年の2月5日に完成し、支部会員全員に発送した。2017年4月からの6年間にわたる踏査に関しては、その進捗状況を会報『山』において、No.864(2017-5)、No.899(2020-4)、No.934(2023-3)で報告してきた。また、支部報でも逐次山行報告を掲載してきた。そして、出版に関しては、会報No.945(2024-2)に著者が執筆した。さらに、3月23日に神奈川大学の協力を得て開催した出版記念講演会の内容についても、会報No.947で渡邊会員が報告済みである。

ここでは、その講演会で実施した参加者のアンケート結果について以下に報告する。

当日は悪天候の影響で15名のキャンセルがあったが、参加者は137名であった。その中で、アンケートに回答いただいたのは99名だった。その内訳は、非会員62名、他支部の会員24名、当支部の会員13名であった。アンケート結果を見ると、この区分による有意差はほとんど無かったので、99名全体についての結果を以下に示す。

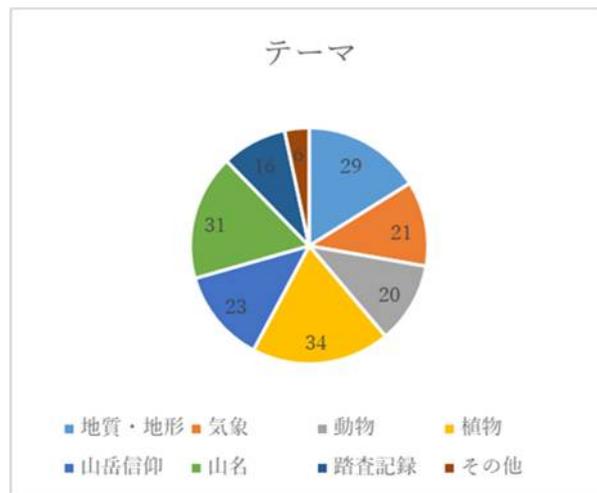
年齢構成では、70歳以上が58%で高齢化が進んでいることを象徴するような結果となっている。講演会の満足度では、無回答の23名を除くと、95%が大満足・満足と回答している。具体的な記述では、講師の萩原・猪熊の両氏の評価が高く、65%に達している。広報の手段としては、多種多様であるが、年齢構成の関係もあって、ダイレクトメール・友人紹介・新聞報道・会報が大きなウェイトを占め、SNSなどの電子媒体の割合が低かった。一般的に広くアナウンスすることも重要であるが、支部活動や特定分野に興味を持っている人のメーリングリストを作成し、直接情報提供するなどの工夫が必要と思われる。

『かながわ山岳誌』の感想を記述してもらったところ、情報量が豊富(36名)、企画が良い(20名)、学術・文化情報が良い(10名)といった好意的な意見が多数であった一方で、地図情報が欲しい(17名)、GPSの記録が欲しい(4名)といった意見も寄せられた。また、今後講演会で取り上げて欲しいテーマとしては、植物、山名の由来、地質・地形、山岳信仰が上位を占めた。この結果を踏まえて9月29日に学術講演会を開催することとしている(詳細はこの支部報2頁に掲載しているので参照していただきたい)。

以上のように、出版および講演会ともに大変好評であった。これらの結果を踏まえて、今後の支部活動に生かしていきたいと思っている。

(プロジェクトリーダー：森 武昭)

アンケート結果 (グラフ)



全国支部懇談会 & 岡野金次郎碑前祭(報告)

令和6年5月25日(土)・26日(日)にて神奈川支部主管の全国支部懇談会、及び岡野金次郎碑前祭が実施されました。神奈川支部としましては発足以来、初の大型イベントとなりました。

第37回全国支部懇談会が神奈川県平塚市で開催された。全国から24支部の方々が集まり、合計134人の参加人数となった。

第一日は、グランドホテル神奈中平塚にて受付を済ませた後、チャーターバスで湘南平に向かう。ここには、日本山岳会初代会長となる小島烏水とともに登山家として初めて槍ヶ岳に登った岡野金次郎の顕彰碑が建っている。今回、この顕彰碑の前で神奈川支部主催による「第一回岡野金次郎碑前祭」を開催した。

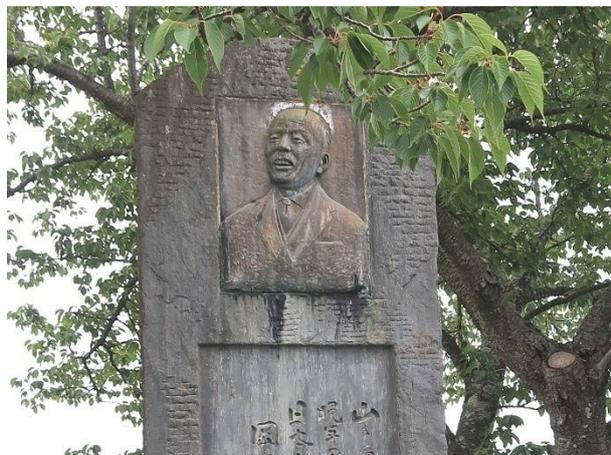
神奈川支部早川副支部長の司会の下、込田支部長の挨拶に始まり、来賓として落合平塚市長、橋本日本山岳会会長の挨拶、岡野家ご子孫代表として岡野眞氏(岡野金次郎の孫)から挨拶を戴いた。

その後、砂田会員(神奈川支部)から岡野金次郎の功績紹介がなされ、岡野の盟友、小島烏水のご子孫を代表として相良嘉洋氏(小島烏水の曾孫)の挨拶が行われた。

その後、高橋あかね会員(神奈川支部)によるフルートの柔らかく高い音色が湘南の空に静かに流れた後、「引き継がれる山岳祭」プロジェクトの坂井広志リーダーによるスピーチで締めくくられた。



湘南平展望台前での記念撮影



岡野金次郎顕彰碑

碑前祭を終えホテルに戻ってきた後、恒例の懇談会が開催された。神奈川支部込田支部長の歓迎挨拶から始まり、尾上元会長の乾杯のご発声の後、和気藹々と懇談会は進行した。



懇談会光景



砂田会員による岡野金次郎の功績紹介

テーブル奥には各支部から贈られた日本酒の瓶が30本近く並んだ。神奈川支部も「箱根山」「松みどり」「昇龍蓬莱」という地酒を三本持ち込んだのだが、日本酒党の会員が多いせいか、入れ替わりに会員がやってきては、30本近い酒瓶の酒が見る見るうちに減っていく状況だった。会も後半となったところで、まず来週開催予定の第

78 回ウェストン祭について東信濃支部長から紹介して頂き、次に全国支部懇談会に関わる宮崎紘一支部事業委員長の挨拶や後藤越後支部長による高頭祭と弥彦山たいまつ登山祭、及びJAC協賛アジア山岳連盟(UAAA)30周年記念事業の式典・祝賀会の参加案内の説明がなされた。最後に関西支部小黒事務局長から次回全国支部懇談会は、2025年10月26日(日)・27(月)に大阪ガーデンパレスにて関西支部設立90周年式典を含め、実施されることが発表され、その後、締めめの言葉を頂き、中締めとなった。

第二日は、Aコース(三浦アルプス)、Bコース(鎌倉ハイキング)、Cコース(自由行動)に分かれてホテルを出発した。

(下記にAコース、Bコースの詳細を記載) 山行も天気に恵まれ、快適な山行となった。

振り返ってみて、第一日の岡野金次郎碑前祭ではタイトなスケジュールの中、参加者の皆様のご協力のお蔭で予定通り進行できたことに感謝。第二日の山行でも、参加者の皆様のご協力とともに天気が味方してくれ、問題なく進行できたことが有難かった。(永井記)

全国支部懇談会記念山行 Aコース(三浦アルプス)報告

1. 期日：令和6年5月26日(日)晴
2. 班編成・参加者

①前半組21名+支部スタッフ6名=27名
森L

1班：落合GL
北九州支部4名、東九州支部2名
本部1名

2班：出江GL
関西支部1名、北海道支部2名
東京多摩支部2名、埼玉支部2名
岐阜支部1名

3班：高橋GL
宮城支部4名、青森支部2名

長島SL
救護 植木

②後半組21名+支部スタッフ5名=26名
本村SL

4班：田島GL
富山支部7名、石川支部1名

5班：廣岡GL
越後支部3名、静岡支部4名

6班：山賀GL
信濃支部1名、千葉支部1名

栃木支部4名

永井L
合計53名



仙元山からの相模湾の光景
(残念ながら富士山が見えず)



樹林帯を行く



東京湾の見える田浦梅の里にて(前半組)

3. コース：

前半組

ホテル7:25~7:30 平塚駅7:35=(東海道線)=
7:57 大船駅8:01=(横須賀線)=8:12 逗子駅
8:35=(バス)=8:42 風早橋8:50~9:05 仙元山
9:15~10:05 観音塚 10:15~11:30 大櫻(昼食)

11:55～12:20 鉄塔下～12:50 乳頭山 13:00～13:35 田浦梅林 13:50～14:20 田浦駅 14:25 解散
後半組は、ほぼ 10～15 分遅れで行動し、鉄塔下で昼食をとり、14:35 に田浦駅着、14:40 解散

4. 特記事項

・天候は晴れで、暑さを心配したが、コースの大部分が樹林帯の上に風が涼しく、快適な山行となった。落伍者もなく参加者全員の足並みが揃っていたため、前後に大きく広がることもなく、まとまった行動で、スタッフの立場からすると負担が軽くて助かった。予定より 50 分早く解散することができた。

・電車移動もスムーズに運び、バスも大きな混雑は無かった。

・乳頭山の下りは 2 つのロープ箇所があり、時間がかかることが懸念されたので、迂回コースを採用したのは正解であった。乳頭山の頂上からほぼ同時に下山した別のグループ(東京多摩支部の有志)はロープ箇所で時間がかかり、田浦の梅林には 10 分遅れで到着していた。

・この時期はほとんど花がない上に、景色も遠くが見えず残念であった。

報告者：森 武昭 (前半組リーダー)

全国支部懇談会記念山行 Bコース(鎌倉ハイク)報告

1. 実施日

令和 6 年 5 月 26 日 (日) 晴

2. 班編成・参加者

①前半組 18 名+支部スタッフ 6 名=24 名

早川 L(&全体)

1 班：渡辺 GL、杉田

信濃支部 7 名、静岡支部 1 名

本部 1 名

2 班：砂田 GL、森(静)

北九州支部 3 名、関西支部 3 名

宮崎支部 2 名、京都・滋賀支部 1 名

救護 田中

②後半組 14 名+支部スタッフ 6 名=20 名

中山 L

3 班：大字 GL、東山

茨城支部 2 名、千葉支部 2 名

群馬支部 1 名、栃木支部 1 名

4 班：稲垣 GL、廣島、丸山

岐阜支部 2 名、東海支部 1 名

東京多摩支部 1 名、埼玉支部 2 名

無所属 2 名

合計 44 名

3. コース踏査内容

本コースは、葛原岡・大仏ハイキングコースを、大仏側から入り、源氏山公園からは、葛原岡方面には行かず、化粧(けわい)坂を降りて、寺院等を見物するコースになっている。

B コース前半組は、8:00 にホテル出発。JR 平塚駅から東海道線で大船へ、横須賀線に乗り換え鎌倉へ、いったん改札を出て、荷物預けて、江ノ島電鉄に乗り、長谷駅で下車し、鎌倉大仏(高德院)を見物する。



高德院入口で記念撮影(前半組)

見物後、大仏ハイキングコース入口に向かう。ここからは、早川 L が先頭に立ち、案内をしながら進む。いきなり階段となり、本日の最難所の標高差約 45m を一気に登り、稜線に出て、大仏様の裏手あたりで一息入れる。ここからは、アップダウンを繰り返し、鎌倉の森や地層の特徴の解説を受け森の中を約 50 分進むと視界が開けて、逗子マリーナや和賀江島(人工島)が眺望できる。このあたりから道は舗装道路となり民家がある中を約 10 分進むと源氏山公園の源頼朝像がある広場にて、少し早い昼食とする。昼食後、B コース参加者全員で頼朝像をバックに集合写真を撮る。

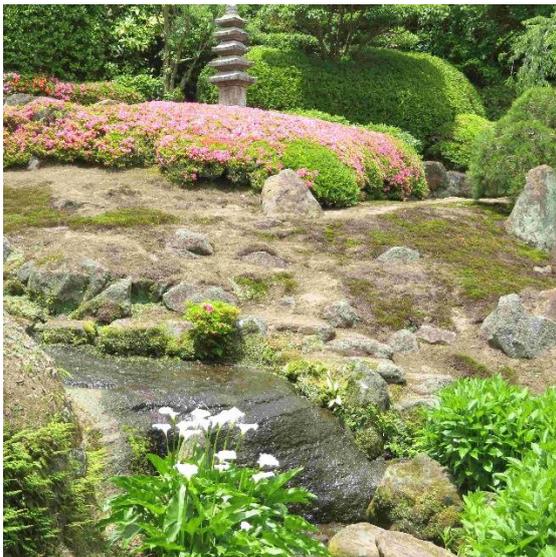


頼朝像の前で集合写真



化粧坂の下り

頼朝像を後にして、鎌倉7切通しの一つの化粧坂の切通しを慎重に下り、海蔵寺に向かう。山門のわきには、鎌倉十井の一つ底脱（そこねけ）の井戸がある。海蔵寺には四季折々の花が咲いていると言われるが、本日は、マツバボタン、イワタバコ、カラーの花などが見られた。



海蔵寺で見られた花の一部

今来た道に戻り、横須賀線のガードをくぐり少し進むと船子地蔵堂に着く。この地蔵堂は、若くして亡くなった頼朝・政子の息女を弔って建てられた。ここから先にある7切通しの二つ目、亀ヶ谷の切通しの途中まで進んで折り返した。カメが転ぶほど急ところから名付けられたとのこと。

横須賀線のガードをくぐり、今度は左折し、寿福寺の入口にある鎌倉十橋の一つ勝ノ橋を渡り（扇ヶ川は暗渠になっていて見落としがち）、鎌倉五山の第三座の寿福寺の総門に着く。総門から



船子地蔵堂

距離のある山門へと進み、ここからは境内に入れないので、塀にそって墓地に入り、さらに奥へ進むと政子と実朝のやぐら（鎌倉特有の崖に掘った横穴式墳墓）が並んである。ここからは、手掘りのトンネルを通過して、鎌倉駅に向かい、無事解散となった。

晴天の下、大仏ハイキングコースを歩き、寺院等の見学では、鎌倉五山、鎌倉七切通し、鎌倉十井、鎌倉十橋の一つは、探訪することができた。

4. コースタイム（前半組1, 2班の例）

ホテル 8:00—平塚から電車移動—大船（横須賀線に乗換）—鎌倉（荷物預けの後江ノ電に乗換）—長谷（1, 2班揃って大仏へ）—9:35 大仏（15分間見物）9:50—大仏ハイキングコース入口 10:00—（稜線を歩く）—相模湾展望所 10:55—11:05 源氏山公園源頼朝像前広場（昼食、写真撮影等）11:45—（化粧坂切通経由）—海蔵寺 12:05—入船地蔵堂 12:15—亀ヶ坂切通折返し 12:25—寿福寺 12:35（総門、山門、政子・実朝のやぐら）—鎌倉駅 13:00/13:10 解散

5. まとめ

- ・平塚-大船-鎌倉-長谷と2回乗換を伴う移動で、ほとんどの参加者が交通系 IC カードを持っていたため切符購入の時間ロスはなかったが、鎌倉での荷物預けは、結構預ける人が意外と多く時間を要し、江ノ電1台を見送った。

- ・大船駅の乗り換えで、スタッフが把握していない一人がトイレへ行ってしまったため乗り遅れたが、連絡が付き、一台遅れで合流できた。班を離れる時は、必ず声をかけてから離れることを再度確認した。

- ・コースについては、有名どころでなく穴場的なところで通常では訪れることがないところを見物出来てよかったとの評価があった。

- ・全体的に大きなトラブルもなく、ほぼ案内した通りの時間に解散することができた。（渡邊記）

古道シリーズ

相州大山道を歩く

— 一大山道標を巡る旅 —

葉上徹郎

【3-1】 柏尾道を歩く (1日目前半)

《歩程》 戸塚駅東口＝(バス)＝不動坂 BS
～ 柏尾不動堂～ 相鉄線いずみ中央駅～ 小田
急江ノ島線長後駅 (約 8.6km)

JR 戸塚駅東口で横浜駅方面のバスに乗り「不動坂」バス停で下車し、不動坂交差点へと進む。交差点先の派出所角を左に入ると赤い屋根のお堂と「従是大山道」と彫られた大きな石柱がある。ここが柏尾不動堂であり、柏尾道の出発点だ。《写真1》ここには、数基の石造物が集められている。堂内には、正徳3年(1713年)造立とされる半跏の不動明王が乗った道標、堂の前には寛文10年(1670年)と記された「五虚橋供養塔」がある。他に元治2年(1865年)松戸宿住人による灯籠、庚申塔1基などがある。これらを見るとこれから先どんな道標があるかとワクワクする。



《1 柏尾不動堂》

不動堂から東海道線を越え、阿久和川沿いに県道401号線を進む。40分程歩いたところの西林寺には、いくつかの道標があるとされるが、最近火災があり、境内への立入りが禁止されていた。阿久和川に戻り、少し上流に進むと永明寺別院の角に出る。門前に2基の石塔がある。右の石塔は不動明王を乗せた享保10年(1725年)の大山道標、左は、出羽三山供養塔だ。《写真2》道標には「右ほしのやみち」と記されている。ここから山裾を回り込むように進むと道標を兼ねた地神塔と道祖神があり、桂坂公園を



《2 道標》

抜けると中川地区センターに出る。駐車場の片隅には、庚申塔などの石塔が集められている。ここから近くの国際親善病院の玄関先を左に曲がり、最高点(60m)を目指す。先ほど通った地神塔から直接この地点を結んだ今はない急坂が貉坂だろうか。最高点からは、大山、丹沢山塊が見える。近くにある老人ホームの塀の外には、馬頭観音像と宝篋印塔が祀られている。ここから西へ下る。高圧電線下を過ぎると県道402号線(かまくら道)との「和泉小学校入口」交差点だ。交差点の北東の角に、庚申塔がある。



《3 庚申塔》

《写真3》道標を兼ねた庚申塔は、文化6年(1809年)のものであり、「東かしを道西大山道 南ふじ沢道 北八王寺道」とある。交差点を過ぎると道路右側、畑の草むらに「月山、湯殿山、羽黒山」

の文字が見える出羽三山供養塔を発見する。出羽三山供養塔は、江戸時代後期に各地に広まってきたという。供養塔から南への細い道に行く。庚申塔と思われる破損した石塔を見て柏尾道は、住宅街を南下していく。やがて泉区総合庁舎の東側を通り、県道22号線(長後街道)との交差点に出る。長後街道を渡ると旧中和田村役場跡で、神明社下にはいくつかの石塔があり、道標を兼ねた庚申塔のほか「蚕御霊神塔」等が祀られている。《写真4》「蚕御霊神塔」は、明治11年、冷害により桑が枯れて蚕が全滅に近い被害を受けたことから村全体で蚕の供養のために造立されたとある。ここから県道22号線を西に数分進むと相模鉄道いずみ野線高架であり、「いずみ中央駅」はすぐ近くだ。飲食店もあるので休憩していこう。一休みしたらこの日の後半、あと3.6km程の長後駅まで頑張ろう。



《4 石造物群》

(つづく)

山行報告

八王子城

城跡ハイキング

令和6年3月9日(土) 晴

今回訪ねる八王子城は、後北条三代目の氏康の三男氏照が築城した山城です。

9:30にJR高尾駅に集合し、9:50発の八王子城跡行きの直通バスに乗車して、10:00に目的地のバス停に到着です。降りてすぐの八王子城跡を紹介するガイダンス施設にて、パネルの説明やパンフレットなどの情報収集をして、いよいよ出発です。

園路内にある八王子城遺構を鳥瞰するジオラマ模型で本日のコース概要を確認して10分程進むと、本丸跡に登る新道と旧道の分岐点となり、階段の道が多いですが曲輪が見られる新道に行くことにしました。

新道に入るとすぐに登りとなり、初めに現れるのが馬蹄段と言われる馬蹄形の小さな曲輪が階段状に連なるところを20分程登り、うっすら汗ばんできたところで平場になり、ここが金子曲輪です。

一休みし、歩を進めると、かなり大きいヤブツバキやカエデの木々があり、アブラチャンの蕾が多数目につきました。そこから程なくして、また平場に出て、新道と旧道が合流する柵門台に着きます。往時は、門があったとのこと。

さらに進むと、三番目の平場となる高丸に至り、眼下に高丸曲輪が見えます。ここは9合目でもあり、本丸跡を目指し進むと、視界が開け、新宿方面のビル群やその奥にスカイツリーがかすかに望めます。この先からは、八王子神社が見えてきます。樹齢七、八百年かと思われる夫婦杉があり、その奥の階段を上ると暴風除けに覆われた八王子神社の社があります。牛頭天王とその属神の8人の王子を祀る信仰が八王子となったといわれます。ここから5分程登ると、いよいよ八王子城本丸跡に到着します(標高460m)。山頂部は狭く、大きな構築物はなかったとのこと。往時を偲んだ後、5分程緩やかに下ると松木曲輪で出て、視界が開け、横浜のランドマークタワーやその後ろに房総半島と思しき島影が見えます。ここの広場で、昼食とします。

昼食後、恒例の集合写真を撮り、砂田さんの後北条5代のミニ歴史講座を拝聴して、午後の部の開始です。



松木曲輪にて

柵門台までの下りは往きと同じ道を下り、ここからは階段のない旧道を下りました。途中、ウグイスの声が聞かれました。

管理棟で休憩し、御主殿曲輪へと向かいます。大手門跡を通り、いざという時その橋を壊し敵の侵入を防ぐ曳橋を渡ると御主殿への階段になります。



曳橋と虎口の階段

曲輪の出入り口の虎口(こぐち)とクランク状の急な階段を昇り詰めると、急に広く開けた場所に出て、ここが御主殿跡です。礎石の位置が分かるよう、また、会所の床面が復元されています。思い思いに曲輪内を散策した後、御主殿跡の高台を下り、御主殿の滝に出ました。この滝は、落城の時、武将や婦女子が自刃して滝の上流に身を投じたため、その血で城山川の水が三日三晩紅く染まったと伝えられています。城山川に沿ってガイダンス施設に戻ります。川のほとりには、フサザクラの蕾と思われるものが数輪確認され、道端には、マルバスマイレヤマカタバミの花が見られ、春を感じられました。

バスの出発まで時間があるので、氏照とその家臣の墓に、希望者だけで行くことにしました。道標には片道約10分とあり、軽い登りの後、下るとなんと長い階段が見えてきます。整

備された階段ですが、なんと 162 段ありましたが、皆元気に一気に登りました。登りきると細長い広場になっていて、前面に氏照の墓、その後面に家臣と思われる墓が多数連なっております。まるで、家来を従えている様子にも見えました。第 3 回小田原城跡ハイキングの時見た小田原駅近くの氏政・氏照の墓とはまるで異なる印象で、こちらの墓のほうが趣があるのではと感じられました。

ガイドンス施設に戻り、予定したバスに乗り、高尾駅にて無事解散となりました。

(渡邊記)

<行程>集合：JR 高尾駅北口 9:30

高尾駅北口 9:50—八王子城址バス停 10:00—ガイドンス施設 10:24—分岐 10:37—金子丸 10:55—柵門台 11:05—高丸

11:20—八王子神社 11:30—11:40 本丸跡 11:45—松木曲輪 11:53 (昼食) 12:40—柵門台—旧道を下る—管理棟 13:35/40—御主殿跡 13:42/55—ガイドンス施設 14:20—氏照と家臣の墓往復—ガイドンス施設 14:50—八王子城跡 15:10—高尾駅北口 15:20 解散

<参加者 (敬称略)>支部会員：砂田、込田、堀江、丸山、森、高井、渡邊の 7 名
公募者：舟木、仲吉、高木、石黒、佐藤、濱田、原田夫妻、高橋の 9 名 計 16 名

稲村ヶ崎・磯づたいのみち

関東ふれあいの道

令和 6 年 4 月 13 日 (土) 晴

今回の関東ふれあいの道(神奈川県版)は、5 回目となり、三浦半島からいよいよ湘南エリアへシフトしてきた。今回は、鎌倉の滑川交差点から小田急片瀬江ノ島駅までのルートだ。



まずは鶴岡八幡宮に向かう

9:02、鎌倉駅を出発。今回は距離が短いという事で最初に鶴岡八幡宮に寄り道することにした。八幡宮を参拝後、桜並木が満開だった段葛を歩き通し、さらに海に向かって歩き、滑川交差点に到着。ここが関東ふれあいの道のスタート地点だ。

ここから海岸沿いの国道 134 号線の歩道を歩くのだが、歩道が整備されていて歩き易い。左手の海岸にはウィンドサーフィンが目立つ。



稲村ヶ崎に続く歩道

歩道ではランナーとすれ違うことが多い。車道と分離していて歩道の幅も広いので走りやすいし、何と言っても海岸の景色も楽しめるのが人気の理由だろう。

稲村ヶ崎の公園(正式には鎌倉海浜公園稲村ヶ崎地区)にて小休止。

その後も国道 134 号線沿いを歩いていく。途中、江ノ電鎌倉高校前駅手前の踏切で大勢の観光客が立ち止まっているのを見かける。その観光客をよく見ると殆どがアジア系外国人だった。この踏切は以前からアニメ版「SLUM DUNK」のオープニングに登場する場所であるため作品のファンからは聖地の扱いを受けていたが、2022 年から映画「THE FIRST SLAM DUNK」が公開されたことで再び観光客が増えたい。



鎌倉高校前駅手前の踏切での観光客

さらに西へ歩いていく。この辺りは歩道が海岸側ではなく国道 134 号線と江ノ電との間にあり、江ノ電との距離がいきなり近くなる。

小動神社にて休憩をとった後、江ノ島入口へと向かう。途中、腰越海岸の砂浜に降りて記念撮影する。



江ノ島をバックに記念撮影

江ノ島入口交差点付近で、関東ふれあいの道の案内板を確認する。スタート地点の滑川交差点にも立っていたが、長年直射日光を浴びているせいかわ文字などが殆ど薄れてしまって判読可能となっていた。ここでは、手前に植込があり、半分ぐらい隠れていたが、案内板の内容は問題なかった。



ゴールでの関東ふれあいの道案内板

12:37、小田急江ノ島線片瀬江ノ島駅に到着。こうして 5 回目の関東ふれあいの道ハイクも無事終了した。なお、この後、ランチとして駅近くの店にて生しらす丼を注文したが、これが極上の美味だったことを忘れずに記録しておこう。

(永井記)

<行程>

鎌倉駅 9:02~9:14 鶴岡八幡宮 9:31~10:01 滑川交差点 10:10~10:46 稲村ヶ崎 11:03~11:55 小動神社 12:06~12:37 片瀬江ノ島駅

<参加者>

森(武)、稲垣、高井(紀)、廣島、大字、打矢、関口、永井の 8 名

鎌倉広町緑地

自然観察会

令和 6 年 4 月 27 日 小雨後曇

今日は、鎌倉の西部にある広町緑地の自然観察会です。広町緑地は、住宅開発から逃れるため鎌倉市が 46 ヘクタール(東京ドーム約 10 個分)ほどの緑地を買い取り、都市公園として開園されました。

朝方の小雨も観察会開始時には上がり、西鎌倉駅を予定より早めの 10:20 に出発しました。15 分程歩くと、緑地入口の広場に着き、初めての参加者や城跡ハイキングからの参加者がいますので、自己紹介の後、いよいよ観察会開始です。

まずは、大エノキをめざして、小川沿いの道を、最近勢力を回復しているカントウタンポポや線香花火の様に 5 本の茎を広げ茎先に小さな花を付けたヤブジラミなどの多くの野草を観察しながら進みます。このエノキは、2 本が絡み合い、低い位置で枝を大きく広げています。この大エノキをバックに写真を撮りました。



大エノキをバックに記念撮影

つぎの目標は、桜大木です。大エノキを後に、ヒメジオンとハルジオンの違いを説明し、しばらく進むと、オオカメノキと同じ仲間のヤブデマリの木に、ガクアジサイに似た花をたくさん咲かせていました。カエル池を右手に見て、ここからは、7~8 分の急な登りとなり、石切り場を過ぎるとだんだんと勾配もゆるくなり、スタジイの林になります。上を見上げると、林の樹冠にくっきりと空間が見え、お互いが領分を侵

さずに成長している様が見えました。人間社会もこのようにしていれば、お互いにいさかいが起らないのですが。



スタジイの林

鎌倉山への分岐を右に折れ、周回道から外れ、5分程進むと桜大木に出会えます。推定樹齢約200年の古木です。

桜大木を後にし、オニシバリ(ナツボウズ)、ホウチャクソウ、ナルコユリやウラシマソウと同じ仲間のムサシアブミなどを見ながらうさぎ山を下ると出発地点の広場に出ます。ここで、昼食休憩としました。

昼食後、午後の部の開始です。きはちの窪と言われる湿地帯の木道をしばらく歩き、緩やかな傾斜を登って行くと、左手奥の方にスタジイと思われる大きく傘を広げたような大木が見えます。少し進むと幹を絡ませた大きなエノキが現れます。

周回路に出て、右折し、背よりはるかに高いハコネダケの間を進み、タイワンリスに樹幹をかじられた木やウマノスズクサなどを見て、木の根っこだらけのところを過ぎ、階段を上ると視界が急に開けて、相模湾の眺望所に出ます。ここからは、鎌倉プリンスホテルが望め、その背後に三浦半島の山々が望めます。しばらく、ミニ山座同定してから、大桐の群生地へと進みます。

大桐群生地は、周回道からちょっと離れていて、何本かの桐の木に紫の花が咲いてるような、いないような微妙な感じですが、ズームで写真を撮るとちらほらと咲いているのを確認できました。

ここから、当初の予定では、富士山の眺望所へ向かうはずでしたが、今日の曇天ですので、それをカットすることにしました。途中の下りで、富士見坂というところがありますが、大山あたりがうっすらと見えるだけで、やはり富士山は見えませんでした。道の両側に



桐の木に紫の花

イノデ、リョウメンシダなどのシダ類の生える道を下り、しばらく平坦な道を進むと、広場に戻り、観察会を終了としました。因みに、観察した樹木20種ほど、草木類25種ほど、野鳥7種ほどでした。(渡邊記)

<行程>

西鎌倉駅 10:20-広町緑地入口広場 10:45-大エノキ 11:05-桜大木 11:55-広場 12:30(昼食) 13:00-相模湾眺望所 13:50-大桐 11:50-広場 14:20-西鎌倉駅 14:50 解散

<参加者(敬称略)>

大字、込田、原田、高井、丸山、堀江、廣島、仲吉、森、関口、渡邊の計11名

河村城

城跡ハイキング

令和6年5月11日 快晴

2024年第1回目となる城跡ハイキングを河村城址から洒水の滝を歩くコースで実施しました。河村城は、戦国時代の北条氏の山城の頃の姿を残しているといわれ、近年、山北町により復元整備が行われ河村城址公園になっています。遅刻者がいましたが、森(武)さんに対応をお願いし、10:10 御殿場線山北駅を出発しました。河村城址へ行くまでに、途中2か所ばかり寄り道しました。最初は、山北駅の南に位置する鉄道公園で、動態保存されているSL(D52)を見学しました。山北町は、東海道線の丹那トンネルが開通するまでは、鉄道の町として栄えた名残を示すものとなっています。次は、盛翁寺という禅宗のお寺です。境内の一角には、神社と思しき建物も見られました。ここからは、いよいよ勾配がきつくなってきて、直登する階段を避けて、我々は、階段を巻いて上がるゆるい道を選び、ミズキやウツギの花や

キビタキ、シジュウカラなどの声を聴きながら進み、やがて本城郭の平場に到着です。



地面に書かれた河村城址図

ここには、地面に描かれた河村城址図や河村城址碑があり、その前で記念写真を撮り、今登ってきたところにある小郭や茶碓郭を見下ろしたりしました。堀に架かる橋を渡り、蔵郭さらに近藤郭へと進み、広く大きく開けた大庭郭に入ります。この一角には展望台があり、大野山から曾我丘陵そして相模湾が見渡せます。また、富士山の右側の稜線が一部見えしました。景色を堪能した後、砂田さんの河村氏や河村城に関するミニ歴史講座を伺ってから、昼食としました。



河村城址碑の前で記念撮影

昼食後本城郭に戻る前に城址公園のある城山の三等三角点を確認し、洒水の滝へと向かいます。馬出（うまだし）郭を過ぎると下り道となり河村城址も終わりとなります。しばらく下ると山道から舗装道となり、さらに下ります。やがて、日向地区の平地におりて、車道をとことこ進み酒匂川に架かる橋、次に水力発電所への導水路を渡り進むと洒水の滝からの滝沢川に出ます。この川に沿って滝に行くまでに、二か所ほど立ち寄りしました。一つは丹沢山塔ヶ岳尊仏別当別院でもある最勝寺ともう一つは洒水の滝不動尊の常実坊です。ここから10分程で洒水の滝に着きます。この洒水

とは、密教用語で清浄を念じて注ぐ香水のこと言うそうです。洒水の滝は、日本の滝百選に選ばれており、三段になっています。下から、1の滝69m、2の滝16m、3の滝29mとなっていますが、下からは2の滝、3の滝は見ることはできません。また、2百数十段ある観瀑台に登っても2の滝、3の滝は見えないとのこと。ということで、観瀑台には登らずに下の赤い橋から1の滝を見上げ、集合写真を撮りました。



滝下での集合写真

幅は広くありませんが、高さがあり、水量が豊富で、見ごたえのある滝でした。また、周りの崖からも水が湧き出ていて、その水で喉を潤しました。ここからは、酒匂川に架かる足柄橋を渡り、御殿場線沿い桜並木を山北駅に戻るのみです。ほぼ予定通りに14:40に山北駅に到着し、解散となりました。快晴の下、新緑の中を歩き、2024年第1回目の城跡ハイキングを無事終了できました。（渡邊記）

<行程>

山北駅 10:10－鉄道公演 10:20-盛翁寺 10:35-11:05 河村城址（各郭見学、昼食）12:30-最勝寺 13:25-常実坊 13:30-13:40 洒水の滝 14:00-山北駅 14:40 解散

<参加者（敬称略）>

支部会員：丸山、森（武）、森（静）、関口、打矢、砂田、込田、渡邊の8名

一般公募者：舟木、吉田、仲吉、加瀬、高木、石黒、佐藤、濱田、原田夫妻、池田の12名の合計20名

八国山緑地と北山公園

自然観察会

令和6年6月1日(土) 晴

今回の自然観察会は、神奈川を離れ、東村山市にある八国山緑地と北山公園に出かけました。八国山(89.4m)の名は、上野、下野、常陸、安房、相模、駿河、信濃、甲斐の八カ国の山々が眺望できたことに由来し、八国山緑地は、1990年に都市計画緑地として開園しました。

10:30に西武新宿線東村山駅を出発し、八国山に向かいます。西部西武園線の踏切を渡り、北山川沿いのハナミズキの並木道を進んで、久米川古戦場跡に着きました。ここは、新田義貞が、鎌倉幕府討伐の一連の戦場の一つです。ここを後にし、少し進むと、いよいよ八国山緑地の入口になります。ここから、約20m位を登ると尾根道出ます。新緑の森の中の道を、20分程進むと右手が開けて、石碑や塚が見えます。ここは、將軍塚と呼ばれ、新田義貞が、先ほどの久米川の戦いのときに陣をはり幟を立てたことに由来します。地図を見ると石碑の近くに三等三角点が表示されていますので、それを探します。石碑の後方のやや離れた草むらの中にあるのを見つけました。三角点にタッチして、おおぞら広場に向かいます。20分程で広場に着き、昼食タイムとしました。

昼食後、尾根道を西に向かって進みます。途中、目線の上には、リョウブ、ネジキ、テイカカズラの木に咲く花やエゴノキ、ガマズミの実などを見つけ、目線を落とすとオカトラノオの花穂状の花があり、木を見たり、草木を見たりといろいろと観察できました。そうこうするうちに、尾根道を離れ、下りの道を行きます。赤い実をたわわに付けたニワトコが見立ち、この辺一帯は、特にナラ枯れが酷くなっていました。ふたつ池を見て、再び西武園線の踏切を渡り、八国山たいけんの里で一休みとしました。このたいけんの里では、八国山緑地周辺の動植物、環境、遺跡、暮らしなどを題材とした展示やさまざまな体験学習ができる施設ですが、時間の関係で、館内までは入りませんでした。

ここから、5分程で、北山公園に着きます。北山公園は1976年、都市計画公園として設置された狭山丘陵を背景にした自然豊かな公園で、新東京百景に選ばれています。豊かな水と緑に囲まれ、初夏には約600種類8千株10万本の花菖蒲が咲き乱れるということです。今日からちょうど、菖蒲祭りが始まったところでした。ハナショウブは、咲き始めたというところで、まばらに咲いていましたが、あと一週間ほどで満開になるのではと思

われました。菖蒲園を背景に集合写真を撮りました。



菖蒲園を背景に集合写真

祭りということもあり、園内は屋台が出て、親子ずれがいっぱいいました。公園出口付近に、あまり見ることがないハナキササゲの木(工事のため移植された)が、数本あり満開の状態でした。

公園を出て、10分程で正福寺に着きます。ここ正福寺にある千躰地藏堂は、都内に二つある国宝建造物の一つで、鎌倉の円覚寺舍利殿とともに禅宗様式建築の代表的遺構です。よくこんなところという東村山の人に怒られますが、こんなところだからこそ国宝建造物が残ったのかもしれませんが、ボランティアガイドの方に説明いただき、とてもいい体験でした。



千躰地藏堂

次は、本日の最後の訪問先となる大善院です。境内には、溶岩の築山があり、その山には唐金製の不動明王を中心に三十六童子像が並んでいます。また、不動明王の子分で、8人の子供たちを代表するコンガラ童子とセイタカ童子の石碑もあり、あちこちに各種アジサイが咲いてました。

東村山市は、水と緑と歴史の町をピーアールしていますが、本日は、水は北山公園の湿地や

北山川、緑は八国山緑地、歴史は国宝地蔵堂にふれることが出来ました。

<付記>

観察した主な花や実など

花：ホザキナナカマド、リョウブ、ネジキ、テイカガズラ、ハナキササゲ、タイサンボク/オカトラノオ、タチアオイ、ムシトリナデシコ、ヘラオオバコ、オオキンケイギクなど

実：サンゴジュ、ムラサキシキブ、クワ、ガマズミ、エゴノキ、ニワトコ、ウグイスカグラ、アブラチャン、ヒマヤラスギなど

(渡邊記)

<行程>

東村山駅 10:30 - 弁天橋 - 保生橋 - 久米川古戦場 11:05 - 尾根道入口 - 将軍塚 (三角点) 11:30 - 11:50 おおぞら広場 (昼食) 12:20 - 尾根道 - 下り分岐 - ふたつ池 - 13:15 八国山たいけんの里 13:25 - 13:30 北山公園 14:30 - 14:40 正福寺 15:00 - 大善院 15:10 - 経文橋 - 東村山駅 15:30 解散

<参加者(敬称略)>

込田、森(武)、森(静)、堀江、砂田、丸山、細川、國清、関口、打矢、渡邊の計 11 名

湘南海岸・砂浜のみち

関東ふれあいの道

令和 6 年 6 月 8 日(土) 晴

第 6 回目の今回は、前回の続きで小田急片瀬江ノ島駅から湘南海岸沿いを歩き、柳島海岸(茅ヶ崎)までのルートだ。

小田急片瀬江ノ島駅を 9:00 に出発する。前回同様、今回も天気は良好。国道 134 号線に出ると関東ふれあいの道の案内板がある。



富士山が薄っすらと見えた

ここで今回のルートを確認した後、出発。歩き始めると、海岸線の奥に富士山が見えた。まだ頂上付近には雪が目立っていた。

国道 134 号線沿いの歩道を歩いていく。すると松林の手前に関東ふれあいの道の案内板を見る。ルートの途中にあるのは珍しいと思ったら、神奈川県の関東ふれあいの道ルートが載っている案内板だった。



関東ふれあいの道案内板

さらに西へ進み、鶴沼橋で引地川を渡るとサイクリングロードに入る。ここからは舗装されたサイクリングロードが関東ふれあいの道のルートとなっている。

サイクリングロードは、砂浜と防風林の間にあり、防風林の北側にある国道 134 号線からは離れている。お蔭で車の走行音からは解放されたが、結構、サイクリングロードだけあって自転車の通行が多い。また砂が積もっている箇所が一部あり、非常に歩き難い箇所もあった。



サイクリングロードの上に砂あり

また当初、海岸線沿いの日陰のない道ということで相当暑くなるのではないかと覚悟していたのだが、実際は海風が吹き、またその風が乾いているので体に当たるととても心地よい。そんな訳

で直射日光に当たっている割には汗が出ていなかった。



烏帽子岩が近づいてきた

長いサイクリングロード歩きに飽きてきた頃、左手に烏帽子岩が近づいてきた。ようやく茅ヶ崎に来たという実感が湧く。

11:45、ランチタイムとし、砂浜に向かって腰を下ろしてパンを食べていたら、右手に持っていたコロッケパンの残りを見事に背後から急降下してきたハシブトガラスに取られてしまった。しかし、右手にはカラスの爪は一切触れてなかった。パンだけを掴んで急上昇していったのだ。鳥に食べ物を取られるということを初めて経験した瞬間だった。(未遂に終わったのは何回かあり)

ランチタイムを終え、出発すると、だんだんと左手の海岸に出向く人が増え、このサイクリングロードも歩行者やランナーが増えてきた。

12:19、茅ヶ崎サザンCに到着。この付近にはお洒落なカフェなどの店が目立ち始め、賑やかな光景が目に入る。



茅ヶ崎サザンCにて記念撮影

その後、店がなくなり、再びサイクリングロードに入る。地図を見るとフィナーレに近づいてきたのが分かるが、砂浜の光景は以前とあまり変わらない。



ひたすらサイクリングロードを行く

12:51、サイクリングロードが砂浜から離れると目の前にトイレが現れた。ここが柳島海岸のトイレでその先に関東ふれあいの道の案内板が立っており、ようやくゴール到着となった。

その後は、国道134号線を歩道橋で渡り、住宅街に進み、浜見平団地バス停に到着。ちょうどバスが発車前で停車しており、すぐに乗車。茅ヶ崎駅へと帰路についた。(永井記)



浜見平団地バス停

<行程>

小田急片瀬江ノ島駅 9:00~9:52 鵜沼橋~11:45
ランチタイム 12:11~12:19 茅ヶ崎サザンC 12:21
~12:57 関東ふれあいの道案内板~13:11 浜見平
団地バス停 13:12=(バス)=13:30 茅ヶ崎駅

<参加者>

森(武)、稲垣、高井(紀)、関口、丸山、永井の
6名

イベント報告

救急法救命員養成講座を受講

令和6年3月16日(土)、17日(日)、20日(水)

神奈川県山岳赤十字奉仕団と日本山岳会神奈川県支部との共同主催で救急法救命員養成講座(学科と実技)を3日間で受講した。

5月に全国支部懇談会での山行もあり、神奈川県支部受講者は6人(込田、中山、出江、葉上、永井、堀江(養成講習から受講))が参加した。

その他、神奈川県山岳赤十字奉仕団からの募集で20人程度。(若い男女の大学生が多かった)

内容は、以下の通りで、まずは初歩的な基礎講習を受講し、次に養成講習を受講した。

(1) 基礎講習

<学科>

赤十字救急法

手当の基本

一時救命措置(BLS)

心肺蘇生法

AEDを用いた電気ショック

気道内異物除法

<実技>

手当の基本

一時救命措置(BLS)

心肺蘇生法

AEDを用いた電気ショック

気道内異物除法

<学科検定>及び<実技検定>

(2) 養成講習

<学科>

急病

けが

止血

傷の手当

骨折の手当

搬送

救護

まとめ

<実技>

止血

傷の手当

骨折の手当

搬送

総合実技

<学科検定>及び<実技検定>

学科ではテキストが用意されており、基礎講習も養成講習もボリュームのある内容だった。

実技では、実際、山岳で発生しうるけが(頭部や腕の出血、足首の捻挫等)の対処方法であり、特に三角巾の重要性を認識した。

基本講習では、最後の学科と実技の検定試験を終えた後、

- ・赤十字ベーシックライフサポーター認定証
(発行日から5年間有効)

を受領した。

養成講習では、最後の学科と実技の検定試験を終えた後、

- ・赤十字救急法救急員(ファーストエイドプロバイダー)認定証
(発行日から5年間有効)

を後日郵送で受領した。



AED(模擬装置)を用いた電気ショック実技

役員会報告

3月役員会

日時：令和6年3月21日（木）：19:00～20:55

場所：かながわ県民センター710会議室

出席者：込田支部長、大槻副支部長、永井事務局長、森、田島、落合、長島、青木、出江

監事：砂田

オンラインでの参加：早川、渡辺、中島

オンラインでの参加監事：砂田

委任状による出席：柴山、廣岡、葉上、田中

[報告事項]

(1)山行報告

・自然観察会として、2/17に相模大野駅＝（バス）＝北里大学前～相模原貯水池（水鳥観察）～相模原公園～麻溝公園散策（野鳥観察）～女子美大＝（バス）＝相模大野駅を実施。参加者8名。

・山行委員会主催行事として、3/6～3/8に赤倉温泉をベースにスノーシューハイキングを予定していたが、最小催行人数に達しなかったので中止とした。

・城跡ハイキングの第4回として、3/9に高尾駅北口＝（バス）＝八王子城跡／ガイダンス施設～八王子城本丸（460m）～松木曲輪（昼食）～管理棟～御主殿跡～ガイダンス施設／八王子城跡バス停＝（バス）＝高尾駅北口を実施。参加者は、一般9名、支部会員7名。

・3/16・3/17・3/20に実施された日赤の救急法講習会の報告があった。支部からの参加者は6名。

[審議事項]

(1)年間計画

・今後の予定を確認した。

(2)山行計画

・関東ふれあいの道の第5回として、4/13に鎌倉駅～鶴岡八幡宮（参拝）～〈段葛〉～滑川交差点～稲村ヶ崎公園（軽食）～小動交差点～片瀬江ノ島駅を実施予定。留守本部は永井が担当。

・今後、ハイキング程度の山行に関しては、留守本部を特に設けず、現地対応として参加者の中から選んで報告することにした。

・自然観察会として、4/27に湘南モノレール西鎌倉駅～御所谷緑地入口～緑地内観察午前の部（大エノキ、石切り場、桜大牧など）～広場（昼食）～緑地内観察午後の部（きはちの窪、相模湾眺望所、大桐、富士山眺望所など）～広場～西鎌倉駅を実施予定。

(3)その他

・森より、3/23に実施する「かながわ山岳誌」出版記念講演会の準備状況について説明があった。スタッフの集合時間は11時30分。

・森より、講演会当日に参加者へ実施するアンケート内容について説明があり、了承された。

・永井より、全国支部懇談会の他支部などからの申込結果の報告があった。

・永井より、同上の神奈川支部会員の申込結果の報告があった。

・永井より、これらの申込結果を踏まえた予算のシミュレーションの内容について説明があった。

・永井より、2023年度の支部事業報告と会計報告（本部報告用と支部全体）について説明があった。

・永井より、本部へ報告する支部活動実績と山行実施計画について説明があった。

・込田より、次期の役員改選について提案があり、意見交換の結果、次のように対応することにした。

①次期役員については、5月に全国支部懇談会があるため現行体制で臨む。②6月に事務局長が選んだ6名程度の次期役員選任のための検討会を設置する。③この検討会で次期支部長候補者を決め、役員会で承認を得る。④役員会での決定を待って現支部長は退任し、次期支部長候補者を支部長代行に決定し、本部へ報告する。⑤来年5月の支部総会で正式に支部長代行を支部長に選任する。

また、監事に関して、富岡の後任として、稲垣を支部総会に提案するが、その前提条件として、役員会開催の第3木曜日に出席可能か否かを確認することにした。

・永井より、岡野金次郎碑前祭の横断幕についての提案があり、第5案を核とし、詳細は永井に一任することにした。

・永井より、県岳連の役員改選についての説明があり、当支部選出委員については再任することにした。

・中島より、来年度第1回の城跡ハイキングとして、5/17にJR山北駅～河村城跡（見学・昼食）～分岐路～洒水の滝入口～洒水の滝～洒水の滝入口～分岐路～富士山展望～JR山北駅を実施予定。）

4月役員会

日時：令和6年4月18日（木）：19:00～20:55

場所：かながわ県民センター702会議室

出席者：込田支部長、大槻副支部長、永井事務局長、森、長島、出江、柴山

監事：砂田

オンラインでの参加：早川、渡辺、中島、落合、葉上、青木

委任状による出席：廣岡、田島、田中

[報告事項]

(1)山行報告

・関東ふれあいの道の第5回として、4/13に鎌倉駅～鶴岡八幡宮（参拝）～〈段葛〉～滑川交差点～稲村ヶ崎公園（軽食）～小動交差点～片瀬江ノ島駅を実施。参加者は8名。

(2) その他

・永井より、3/28 に開催された支部連絡会の内容についての説明があった。

[審議事項]

(1) 年間計画

・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・自然観察会として、4/27 に湘南モノレール西鎌倉駅～御所谷緑地入口～緑地内観察午前の部（大エノキ、石切り場、桜大牧など）～広場（昼食）～緑地内観察午後の部（きはちの窪、相模湾眺望所、大桐、富士山眺望所など）～広場～西鎌倉駅を実施予定。

・今年度第1回の城跡ハイキングとして、5/11 にJR 山北駅～河村城跡（見学・昼食）～分岐路～洒水の滝入口～洒水の滝～洒水の滝入口～分岐路～（一般道）～JR 山北駅を実施予定。

・自然観察会として、6/1 に東村山駅～弁天橋～保生橋～久米川古戦場～尾根道入口～おおぞら広場（昼食）～尾根道～下り分岐～ふたつ池～八国山たいけんの里～北山公園～経文橋～東村山駅を実施予定。

・関東ふれあいの道ハイキングの第6回として、6/8 に小田急線片瀬江の島駅～サイクリングロード入口～ヘッドランド手前～サザン C～柳島海岸～浜見平団地バス停＝（バス）＝茅ヶ崎駅南口を実施予定

(3) その他

・永井より、5/18 に開催する支部総会の議案書と各議題について説明があった。審議の結果、①開催案内を付けること、②第5号議案については経過報告と前回役員会で決定した今後の対応を記載した資料を付けること、を前提として承認された。

・永井より、県岳連の理事と評議員の候補者について説明があり、理事候補者として永井・早川、評議員候補者として砂田・込田を推薦することにした。

・森より、3/23 に開催した「かながわ山岳誌」出版記念講演会への役員の協力に感謝の意が表明された。そして、当日実施したアンケートの集計結果の報告があった。大変好評で参加者も約150名であった。

・上記アンケートの結果を踏まえて、学術講演会と山の天気ライブ授業実施案が提案された。審議の結果、前者は9/29の午後県民センターで、後者は来年の3/15に横浜（場所は県民センターを予定）で机上講習、3/16に西丹沢の大野山でライブ授業を実施することにした。

・中島より、岡野金次郎碑前祭の記者発表資料について説明があった。

・中島より、5/25 に実施する岡野金次郎碑前祭の式次第案についての説明があった。

・大槻より、5/25・26 に実施する全国支部懇談会の運営要領についての説明があった。懇親会は着席で行うことを確認した。

5月役員会

日時：令和6年5月16日（木）：19:00～20:55

場所：かながわ県民センター709 会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、森、中島
オンラインでの参加：渡辺、落合、葉上、出江、植木

委任状による出席：長島、田島、廣岡、青木、大槻

[報告事項]

(1) 山行報告

・自然観察会として、4/27 に湘南モノレール西鎌倉駅～御所谷緑地入口～緑地内観察午前の部（大エノキ、石切り場、桜大牧など）～広場（昼食）～緑地内観察午後の部（きはちの窪、相模湾眺望所、大桐、富士山眺望所など）～広場～西鎌倉駅を実施。参加者は11名（内1名は非会員）。

・今年度第1回の城跡ハイキングとして、5/11 にJR 山北駅～河村城跡（見学・昼食）～分岐路～洒水の滝入口～洒水の滝～洒水の滝入口～（一般道）～JR 山北駅を実施。参加者は会員8名、非会員12名。

[審議事項]

(1) 年間計画

・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・自然観察会として、6/1 に東村山駅～弁天橋～保生橋～久米川古戦場～尾根道入口～おおぞら広場（昼食）～尾根道～下り分岐～ふたつ池～八国山たいけんの里～北山公園～経文橋～東村山駅を実施予定。

・関東ふれあいの道ハイキングの第6回として、6/8 に小田急線片瀬江の島駅～サイクリングロード入口～ヘッドランド手前～サザン C～柳島海岸～浜見平団地バス停＝（バス）＝茅ヶ崎駅南口を実施予定。

(3) その他

・森より、9/29 に県民センターで開催する学術講演会の具体的な実施内容について説明があった。今後の広報活動への協力依頼があった。

・森より、来年の3/15・16 に予定している「山の天気ライブ授業」の具体的な実施案の説明があった。12月頃から募集を開始する予定。

・永井より、全国支部懇談会開催へ向けて準備状況の説明があった。大きな変更点は5/26の雨天対応で予定していたホテル会議室の使用は経済的負担が大きいためキャンセルし、山行中止の場合にはCコース（観光など）に切り替えることにした。その他については、5/18の支部総会後に開催する支部スタッフによる最終打合せで確認す

ることとした。

・永井より、5/18の支部総会の出席（委任状を含む）回答は現時点において69名で過半数の63名を超えているとの報告があった。

6月役員会

日時：令和6年6月20日（木）：19:00～20:45

場所：かながわ県民センター705会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、中島、出江

監事：砂田

オンラインでの参加：渡辺、落合、長島、森

委任状による出席：廣岡、柴山、青木、植木、早川、大槻、田中、葉上

[報告事項]

(1)連絡事項

・12/19（木）に支部連絡会の開催が予定されていたが、変更になる見通し。したがって、12月役員会は、当初案通り12/19に開催する。

(2)山行報告

・全国支部懇談会記念山行Aコースとして、神奈中ホテル～平塚駅＝（東海道線）＝大船駅＝（横須賀線）＝逗子駅＝（バス）＝風早橋～仙元山～観音塚～大櫻～鉄塔下～乳頭山～田浦梅林～田浦駅を実施。参加者は、前半組21名＋支部スタッフ6名＝27名、後半組21名＋支部スタッフ5名＝26名、合計53名。

・全国支部懇談会記念山行Bコースとして、神奈中ホテル～平塚駅＝（東海道線）＝大船駅＝（横須賀線）＝鎌倉駅＝（江ノ島電鉄）＝長谷駅～鎌倉大仏（高德院）～大仏ハイキングコース入口～源氏山公園～（化粧坂切通経由）～海蔵寺～入船地蔵堂～亀ヶ坂切通折返し～寿福寺～鎌倉駅を実施。参加者は、前半組18名＋支部スタッフ6名＝24名、後半組14名＋支部スタッフ6名＝20名、合計44名。

・自然観察会として、6/1に東村山駅～弁天橋～保生橋～久米川古戦場～尾根道入口～おおぞら広場（昼食）～尾根道～下り分岐～ふたつ池～八国山たいけんの里～北山公園～経文橋～東村山駅を実施。参加者は11名。

・関東ふれあいの道ハイキングの第6回として、6/8に小田急線片瀬江の島駅～サイクリングロード入口～ヘッドランド手前～サザンC～柳島海岸～浜見平団地バス停＝（バス）＝茅ヶ崎駅南口を実施。参加者は6名。

(3)その他

・毎日新聞の5/26付け朝刊に掲載された「岡野金次郎碑前祭」の記事の紹介があった。

[審議事項]

(1)年間計画

・今後の予定を確認した。

(2)山行計画

・8/3～8/5に長岡の花火大会見学と笹ヶ峰信濃

自然ハイキングについて提案があった。山想クラブとつくも会との共催。リーダーは小笠原会員。主な日程は以下のとおり。

8/3 11:30JR北陸新幹線『上越妙高駅』集合。（東京駅9:32発はくたか557号乗車）～妙高にて昼食＝（車）14:30長岡着～買い物の後 丘陵公園駐車場＝（シャトルバス）＝会場（場所確保）～19:00花火大会開園～21:00花火大会終了＝（シャトルバス）＝丘陵公園＝（車）＝23:00妙高『ユアーズ・イン』帰還

8/4 8:00宿出発＝（車）＝9:00笹ヶ峰～10:00周遊歩道入口～12:00笹ヶ峰乙見湖～15:00笹ヶ峰牧場着＝（車）＝16:00赤倉ユアーズ・イン着

8/5 9:00宿出発＝（車）＝黒姫高原信濃自然歩道入口～13:30苗名滝入口着（昼食）～14:30妙高高原駅着（解散）

・山行委員会主催で9/21に南高尾セブンサミットの山行を実施予定。

健脚コース：8:30高尾山口駅集合

高尾山口駅8:35～10:10高尾山10:15～11:10大垂水～11:40大洞山～11:50コンピラ山12:20～12:40中沢山～入沢山～13:20西山峠13:25～泰光寺山～13:55三沢峠14:00～榎窪山～14:30草戸山14:40～15:50四辻15:55～16:15高尾山口駅

一般コース：10:15高尾山口駅集合

高尾山口駅10:24＝（バス）＝10:36大垂水10:45～11:20大洞山11:25～11:35コンピラ山以降は健脚コースと合流

エスケープコース：草戸山から大戸へ下山し、バスで横浜線の相原駅または橋本駅へバス乗車。

・自然観察会として9/28に大泉学園駅～牧野記念庭園～石神井公園ふるさと文化館（昼食）～石神井公園（三方池、石神井池など）～石神井公園駅を実施予定。

(3)その他

・永井より、5/30に開催された支部連絡会議の内容について報告があった。

・森より、9/29に県民センターで開催する学術講演会の宣伝用チラシの紹介があった。広報活動を開始したが、現時点での申込は講師を含めて25名。

・永井より、ZOOMの使用料金の負担について提案があり、承認された。

・永井より、支部報の原稿分担について提案があり、それぞれの担当を決めた。

・中島より、来年度以降の岡野金次郎碑前祭の実施体制について提案があった。これから、関係団体と意見調整することとした。

・永井より、全国支部懇談会の会計報告について説明があった。

・永井より、今後の支部体制を検討する前提として、支部の現状と課題について説明があった。これに対する意見及び追加項目を6月末までに永井あてに

提出することとした。

・永井より、県岳連から 70 周年記念表彰の推薦依頼が来ている旨の説明があった。当支部からは、「かながわ山岳誌」を推薦することにした。

・森より、「かながわ山岳誌」がほぼ完売状態になった旨の説明があった。9/29 の講演会には、支部と役員がストックしている残数で対応することにした。

支部会員動静

- ・ 15620 三枝光吉 JAC を退会 (2/20)
- ・ 12895 植木叔美 支部を退会 (3/1)
- ・ 13450 山野巧 JAC を退会 (3/20)

今後の予定

役員会

- 7月18日(木)19時～ 709 会議室
 - 9月19日(木)19時～ 709 会議室
 - 10月17日(木)19時～ 709 会議室
 - 11月21日(木)19時～ 705 会議室
 - 12月19日(木)19時～ 709 会議室
- 於：かながわ県民センター

イベント(城跡ハイキング)

- 9月14日(土) 山中城(静岡県)
- 11月9日(土) 石垣山城(小田原市)
- 1月11日(土) 小沢天神山城・榊形山(川崎市)
- 3月8日(土) 衣笠城・怒田城(横須賀市)

イベント(関東ふれあいの道ハイキング)

- 10月12日(土) 大磯・高麗山のみち
- 12月1日(日) 鷹取山・里のみち
- 2月1日(土) 弘法大師と桜のみち

イベント(自然観察会)

- 9月28日(土) 牧野記念庭園&石神井公園
- 2月15日(土) 皇居一周探鳥会

イベント(その他)

- 9月29日(日) 学術講演会
(県民センターホール)
- 10月20日(日) 南関東三支部合同懇親会山行
- 11月17日(日) 県岳連創立 70 周年式典
- 12月7日(土) 晩餐会
- 12月8日(日) 晩餐会山行
- 3月15日(土) 山の天気ライブ授業(座学)
(県民センター)
- 3月16日(日) 山の天気ライブ授業(大野山)

あとがき

支部報の発行がまたまた遅れて誠に申し訳ございません。心よりお詫び申し上げます。

2024 年に入り、「かながわ山岳誌」の出版、かながわ山岳誌出版記念講演、全国支部懇談会&岡野金次郎碑前祭とイベントが続きました。そして、9月29日には、かながわ山岳誌出版記念の第2弾として学術講演の開催をかながわ県民センターホールで予定しております。皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島、永井、葉上

令和6年7月1日